

**留学先国名** : ドイツ  
**留学先学校名** : University of Konstanz  
**留学期間** : 平成 28 年 3 月 3 日 ~ 平成 29 年 3 月 13 日

まず、留学の生活について記載する。

専門科目の授業に関しては、達成度が低い。とくに前期は、英語力不足と知識不足でディスカッションに参加できないことが多々あった。試験でも分からない単語があった。しかし、そこでめげずに思い切って授業外で英語を話す機会を増やし、英語力強化を図ったことで、後期は周りで話していることをほとんど理解することができ、発言もできた。履修していた授業も好きで、わくわくしながら授業に臨むことができた。ドイツの社会についての授業はドイツ語で開講しているものがあつたため、日本にいる間にドイツ語を勉強するべきだったと後悔した。ヨーロッパの人（特にドイツ人）は、政治、宗教、経済や歴史について普段の生活の中で話をするのが多く、授業よりも興味深いこともあつた。とくにドイツ人は非常に顕著で、日常会話でも気づけばそのような話をする。授業外でも毎日のようにディスカッションができ、非常に有意義だった。

語学については、留学前に比べると、格段に伸びたように思う。なるべく日本語を排除し、海外の人とだけ交流するように心がけていたからだと思う。しかし、一番の成果は、語学レベルが上がったことというよりは、語学に対する姿勢を変えることができたということだ。英語については、留学前は英語の勉強のためと考えていたが、今ではそのようなことを意識せずに自然と英語の動画や映画を見るようになった。留学前は理解できない部分があり、字幕がなければ動画を見ることを諦めていたり、電話やスカイプだと自信がなかったり、話すこと自体を恥ずかしく思うことがあつた。しかし、留学後は、字幕なしでも要旨を把握できるようになり、電話やスカイプも自信をもって出来るようになった。また、英語は母国語ではないから間違えて当然だ、と割り切って考えられるようになり、失敗を恐れなくなった。ドイツ語はまだ初級であるため、継続してドイツ語の映画や動画を見て覚えていく必要があると感じる。しかし、英語もドイツ語も試験をまだ受けていないので実際にどれだけ伸びたかはわからない。夏までには試験を受ける予定である。帰国後は、タンデムを見つけ練習をし、海外ドラマを見るつもりである。

また、課外活動として大学のオーケストラに参加していた。活動の動機は、音楽を通じてより多くのドイツ人と交流するためである。学んだことは、ドイツ人の効率の良さである。こちらの人は時間の使い方が上手である。自分の出番がない楽章は参加しなくてもよく、練習終了後 15 分後にはほとんど全員が近くのバーに集合している。ドイツでは仕事を時間内に終わらせないと仕事ができない人間だと認識されるそうだが、労働に関してだけでなく普段の生活の中でも常に効率を意識して生活を送っているようだ。普段は海外に興味のあるドイツ人学生としか関ることができないが、このオケを通じて様々な年代のドイツ人やスイス人とも交流することができ、人脈を広げることができたため、非常に有意義だった。

さらに、11月に行われるボストンキャリアフォーラムにも参加した。帰国後に他の大学生と同じように時間をかけて就職活動をしようと考えていたが、希望の会社がキャリアフォーラムに参加していたため参加を決めた。友人や先輩に就職活動の仕方を教えてもらい、約1か月半準備をした。結果として、自動車部品関連の会社から内定をいただき、秋からの就職が決定した。このフォーラムを通して、多くの人事の方のお話を聞くことができただけでなく、優秀な学生に会うことができ、刺激を受けるいい機会となった。三日で内定を頂けるのだから効率もよく節約もできるのだが、就職活動のせいで留学生生活を存分に楽しむことができないことがあるため、後輩にはおすすりできない。留学生生活を犠牲にしても就職活動をする覚悟を決めてから臨むべきである。

次に、留学の成果についてである。

性格に関しては、パスポートと命を失うこと以外、何も怖くないと思えるようになり、恥を捨てて何事も挑戦できるようになった。また、人は人、自分は自分だという風に割り切って考えられるようになり、今までは、こうあるべきという生き方をすることと無理をしても社会に適合することが大切だと考えていたけれども、様々な価値観と人の生き方に触れ、等身大の自分を大切に、周りに何と言われようが自分の道を生きようと思えるようになった。人生は一度きりだから、仕事だけでなく存分に人生を楽しもうと思えるようになった。さらに、いい意味でも悪い意味でも、一人で生きることに慣れた。

勉強面に関しては、言語に対する姿勢が大きく変わった。留学前は言語は勉強するものだと思っていたが、趣味としてあらゆる言語を練習できるようになった。様々な国籍の友人を作り彼らの国を訪れ、海外を身近に感じたことがきっかけだと思う。

日本への考え方が大きく変わった。留学前は、日本の好きな部分も嫌いな部分も含めて死ぬまで日本で暮らそうと考えていたが、ヨーロッパの国々の人生の楽しみ方と彼らの考え方に直に触れ、なるべく早く日本から出たいと考えるようになった。人生の選択肢を増やすためにも、より多くの言語を習得したい。

留学後のキャリアについては、日本でのキャリアを活かしドイツで働くこと（自動車部品）、もしくは寿司職人になりドイツに移住することを考えている。英語を忘れないために、英語を使う機会のある仕事をしたい。

最後に、今後留学する人へのアドバイスを記載する。

大きなことは言えないが、留学に挑戦するか挑戦しないかで悩んでいるなら挑戦した方がいい。後悔しない人生を選んだ方がいいということもあるが、何より留学生活は非常に楽しいからだ。きっと、日本では出会えない人々、日本では経験することのできないことを経験できるチャンスがあると思う。個人的には、勉強はほどほどにして、色々な人と関わることを勧める。